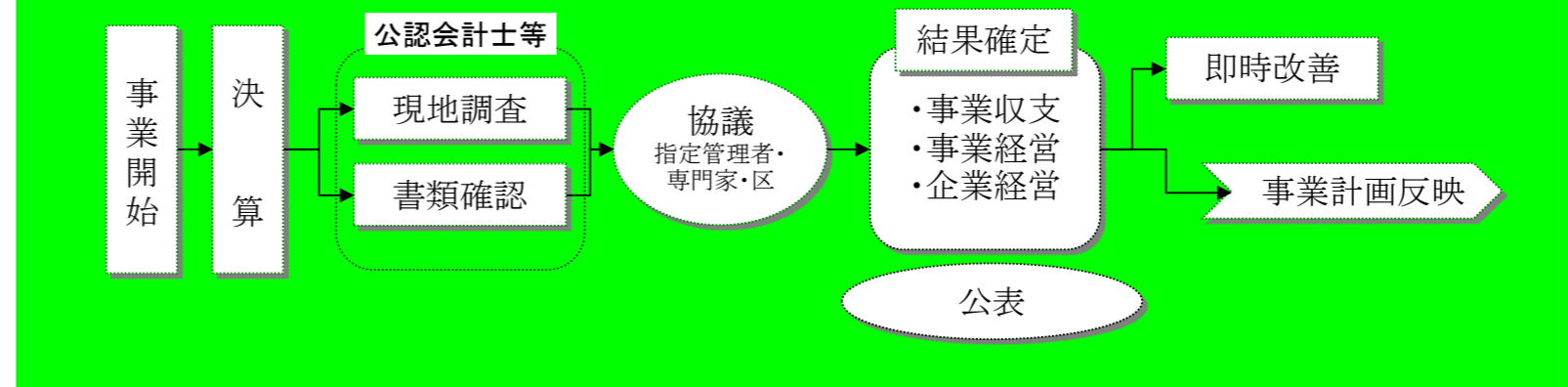


令和4年度 高齢者総合サポートセンター指定管理者 経営・財務モニタリング

1 経営・財務モニタリングの概要

- 対象: 高齢者総合サポートセンター「かがやきプラザ」指定管理者 (千代田区社会福祉協議会)
- 方法: 福祉サービス第三者評価等を行っている事業者による財務状況、現地聞き取り調査等による経営状況の分析
- 視点: 財務状況、経営状況、課題及び改善点等

2 モニタリングの流れ



3 経営・財務指標

高齢者総合サポートセンター指定管理者の主な経営指標の状況
()内は全国平均

①短期安定性

- ・流動比率・・・913.7% (320.9%) <評価 ◎ >
※全国的な社会福祉法人の水準と比較しても優位性が認められる

②長期持続性

- ・純資産比率・・・79.3% (72.9%) <評価 ○ >
- ・固定長期適合率・・・13.7% (83.8%) <評価 ◎ >
※全国的な社会福祉法人の水準と比較しても優位性が認められる

③資金繰り

- ・事業活動資金収支差額率・・・△1.29% (7.9%) <評価 ○ >
※コロナ禍における影響を反映しているが、長期的には懸念はない

④合理性

- ・人件費比率・・・68.47% (66.5%) <評価 ○ >
- ・事業費比率・・・22.7% (14.5%) <評価 ○ >
※事業目的を考慮して容認できる範囲に収まっている
- ・事務費比率・・・7.1% (10.1%) <評価 ○ >

⑤収益性

- ・経常増減差額率・・・△2.50% (3.26%) <評価 ○ >
※コロナ禍の収束と共に改善が期待されるが注視する必要がある

【出典】

- ・東京都福祉保健局ホームページ掲載 「社会福祉法人の経営指標」(平成29年監事説明会資料)
- ・社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム(wamnet) 「社会福祉法人の経営状態(全国平均)」2021年版より

4 提言・アドバイス(事業の改善策)

財務状況

「かがやきプラザ」の活動においては、収入の大半は指定管理料収入であり、コロナ禍による利用者数の減少による影響は極めて少ない。
法人本体では「3 経営・財務指標」に示した社会福祉法人の経営指標による分析のとおり堅調な運営が行われている。
令和2・3年度の法人単位貸借対照表から見た純資産額は十分にあり、資金繰り上も特に問題はない。

財務提言

法人本体における財務状況では、(事業活動資金収支差額率)(事業費比率)(経常増減差額率)についてコロナ禍における影響を色濃く反映した結果となっているものの、これらは事態の収束と共に改善が期待でき、特段の懸念材料とはなっていない。
社会福祉法人は営利を目的としないものの、地域の福祉拠点として利用者の意向を踏まえつつ、真に必要な高い事業に向けて見直しを行い、コスト削減を図っていく必要がある。

指定管理業務 課題・提言①

「かがやきプラザ」の職員へのアンケートから得られた結果として、職員の経営全般への関心度や理解度、リスクマネジメントの理解度は極めて高く、組織全体として個々のサービスの担当職員への伝達等も確実になされてはいるが、各業務間における相互理解については改善の余地がある。
部門間の相互理解は重要であり、組織全体のレベルアップにもつながる。

指定管理業務 課題・提言②

「かがやきプラザ」は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるための総合的な支援を目的とする施設で、区内の高齢者向けサービスの中核となる拠点である。
利用者アンケートからは閉じこもりがちな高齢者の掘り起こしや利用者の地域偏在の解消が課題として挙げられる。
今後は、例えば、高齢者の多くが不得手とするオンライン講座、パソコン、スマートフォンなどのIT機器操作に関する事業等を効果的に実施することを通じて課題の解決を図ることが求められる。